

第17回北斗市地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時： 令和6年6月19日（水） 13時30分～15時00分

場所： 北斗市役所本庁舎1階 大会議室

(出席) 15名
(代理出席) 2名
(欠席) 5名
(事務局)

1 開会

2 協議事項

(1) 委員の変更について（報告）

- 「資料1」に基づき事務局から報告。

(2) 令和5年度事業報告及び決算報告について（協議）

- 「資料2」に基づき事務局から説明。

（意見、質疑なく、全委員に承認された。）

(3) 令和6年度事業計画（案）及び予算（案）について（協議）

- 「資料3」に基づき事務局から説明。

○会長

- ・モニターツアーを小学生向けとした意図があれば教えてほしい。また、今後対象の年齢層を上げてみる、たとえば高齢者に上げてみるというのはいかがでしょうか。

●事務局

- ・高校進学から公共交通を利用し始める中学3年生を対象にしてはどうか、ということも2年前のモニターツアー開始当初には検討したところだが、市の行事等に参加しにくい年代かと思われたため、まずはその前段階である小学校高学年を対象にして開始したもの。
- ・資料に掲載したモニターツアーについては、両方とも教育大の学生のアイデアを踏まえて企画しているもの。
- ・小学生向けのモニターツアーは、北斗市民は高校進学と同時に公共交通を利用する方が多いので、中学3年からではなく小学生のうちから慣れ親しんでもらいたいという考え。
- ・高齢者とのモニターツアーは、免許返納した高齢者の皆様に公共交通を使って、孫世代と交流しながら外出する機会をつくるという趣旨で計画しているもの。
- ・後ほどの議案で説明するが、巡回ワゴンを実際に体験してもらうモニターツアーも計画している。

（その他意見、質疑なく、全委員に承認された。）

(4) 巡回ワゴン利用促進の取組等について（協議）

●「資料4」に基づき事務局から説明。

○副会長

- ・茂辺地・石別線のフリー乗降区間の利用について、実際に利用されている方に直接レクチャーしてみてもよいのではないかと。運転手に声をかけにくいという方もいると思うので、たとえば乗降地を紙に書いてもらうとか、ハードルを下げる工夫があれば利用しやすくなる。

●事務局

- ・モニター乗車やサポート乗車で実際に伝えてみたい。
- ・運転手へのヒアリングによれば、利用者が固定化しており、顔見知りになってきているため、自宅の近くで案内するなど柔軟にサポートを行っている。

○委員

- ・事前に事務局から水曜日運行等の変更案について説明を受けた。1運行当たり2人という目標がなかなか達成できておらず、事務局でも苦心の上、上磯線を水曜日運行に変更するという案を計画されたものと承知している。
- ・会社としては、1日運行日が増えるため、収益性の面や運転手の労務管理の面で歓迎できる案ではなかったものの、まずは運行してみて利用が増えればよいのではないかと、ということで苦渋ながらやってみることとしたい。やってみて、その結果を見ながら判断していきたい。

○会長

- ・提案のあったソフト施策とセットでなければならない。ある程度期間を決めて成果が出なければやむを得ない判断もあり得ると思う。

○委員

- ・昔から車で移動するのが当たり前の地域で、公共交通に乗ること自体ハードルが高い。駅のすぐ近くに住んでいても車で移動する人がほとんど。そのような地域に巡回ワゴンを導入しても、しばらく利用者は少ないだろうと思っていた。
- ・一方で、高齢者が将来車を手放したときには公共交通を利用することになり、そのときに巡回ワゴンがあればとても便利だと思う。一度乗ってもらえれば便利さがわかる。
- ・利用が伸びないと色々な意見が出てくるだろうが、鉄道は同じ線路しか走ることができず、それを補完する公共交通は絶対に必要。市の取組には意義がある。
- ・小学生向けモニター乗車について、当社でも小さい頃に公共交通に乗ることを知らないと大きくなってからも利用しないと考え、小学校にアプローチしてきた。ちょうど今日、浜分小学校の児童に体験乗車してもらっているところ。

○委員

- ・小学校の頃、休みの日に友達同士、子供だけで家族に送ってもらわずにプールなどに行き遊んで帰ってきた思い出がある。
- ・モニター乗車も、目的地を決めて、目的地まで行ってみませんか、というやり方であれば子供が友達同士で参加しやすいのではないかと。

●事務局

- ・夏休みや冬休み期間に行われているバス冒険キングという函館バスの企画と組み合わせ、目的地を定めて、乗り継ぎを組み合わせながら実施してみるのも面白いかと。

もしれない。

- ・巡回ワゴンのモニター乗車は高齢者を想定していたが、夏休み、冬休み期間の子供についても、参考にさせていただきたい。

○委員

- ・乗車のアシストは、運転手だけではなくスマホアプリを活用できないか。巡回ワゴンの接近情報や乗り換え情報を示すアプリがあれば便利だし、利用者を広げることもつながる。
- ・今は60歳代くらいの方は普通にスマホを使用している。その世代がさらに高齢になったときには公共交通とスマホの組み合わせも当たり前なものになるはず。

●事務局

- ・地域の方に公共交通を利用する習慣を付けていただいた上で利便性の向上を追求していきたい。
- ・スマホアプリの活用などは、マイナンバーカードとの連携も含めていずれ協議が必要になるものと認識。
- ・現在、巡回ワゴンのほか新函館北斗駅・上磯線や無料のせせらぎ号などが運行しており、将来的に各路線のあり方を整理していく必要がある。その際、AIを用いたデマンド化なども合わせて検討していかなければならないものと考えている。

○会長

- ・教育大との連携には力を入れて取り組んできた。モニターツアーの企画についても、巡回ワゴン、道南いさりび鉄道、函館バス、JR北海道といった全公共交通をうまく乗り継ぎながら北斗市の魅力を感じられるようなツアーをつくるよう学生に指示してきたところ。時間的な制約があってすべてカバーできなかったところはあるが、今年で2年目となり参加者や申込みも増えてきているので、引き続き理解者を増やしていけるよう継続していきたい。

(その他意見、質疑なく、全委員に承認された。)

(5) 北斗市地域公共交通計画の変更及び地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について(協議)

- 「資料5」に基づき事務局から説明。

(意見、質疑なく、全委員に承認された。)

(6) その他

- 「資料6」に基づき今後のスケジュールを事務局から説明。

以上